

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-309746

(43)Date of publication of application : 09.11.1999

(51)Int.CI.

B29C 45/14
B32B 15/08
B32B 27/00
H01M 2/16
H01M 2/18
H01M 8/02
// B29K 83:00
B29K105:22
B29L 9:00
B29L 31:34

(21)Application number : 10-120401

(71)Applicant : MITSUBISHI PLASTICS IND LTD

(22)Date of filing : 30.04.1998

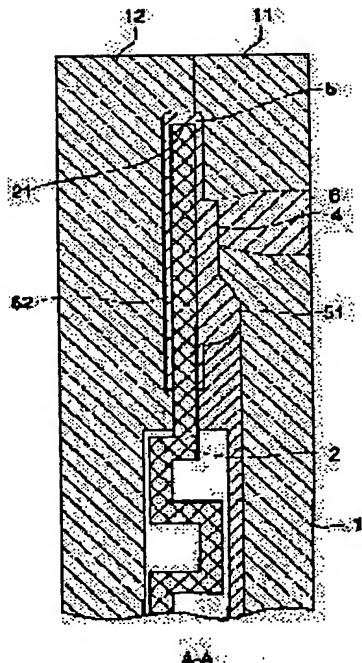
(72)Inventor : SEKIYAMA MASAYOSHI

(54) PRODUCTION OF SILICONE RESIN-METAL COMPOSITE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a method for producing a silicone resin-metal composite which is free of burrs and others, correct, and excellent in production efficiency and on both sides of which silicone resin layers are formed.

SOLUTION: In a method for producing a silicone resin-metal composite in which silicone resin layers are formed on both sides of a thin metal plate by an injection molding method, a mold cavity is formed so that a resin channel 5 is formed in the fringe part of the metal plate 2 arranged in the mold cavity through the cross section part 21 of the metal plate, a silicone resin is injected from one side of a silicone resin layer to be formed, and the silicone resin layers are formed in the fringe parts of both sides of the metal plate.



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-309746

(43)公開日 平成11年(1999)11月9日

(51)Int.Cl.⁶
B 2 9 C 45/14
B 3 2 B 15/08
27/00 1 0 1
H 0 1 M 2/16
2/18

F I
B 2 9 C 45/14
B 3 2 B 15/08
27/00 1 0 1
H 0 1 M 2/16
2/18 L
Z

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁) 最終頁に統く

(21)出願番号 特願平10-120401

(22)出願日 平成10年(1998)4月30日

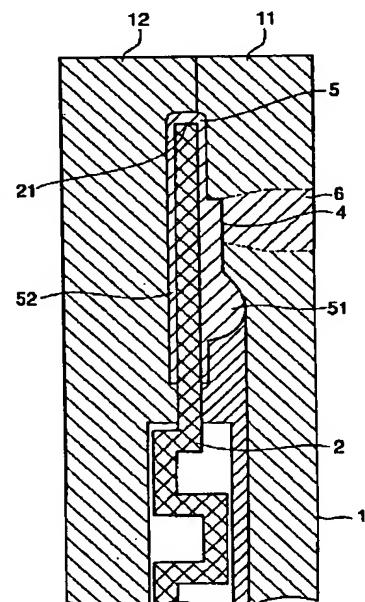
(71)出願人 000006172
三菱樹脂株式会社
東京都千代田区丸の内2丁目5番2号
(72)発明者 関山 政義
神奈川県平塚市真土2480番地 三菱樹脂株
式会社平塚工場内

(54)【発明の名称】シリコーン樹脂-金属複合体の製造方法

(57)【要約】

【課題】バリ等のない正確でかつ生産効率に優れた両面にシリコーン樹脂層を設けたシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法を提供する。

【解決手段】金属薄板の両面にシリコーン樹脂層を射出成形法により形成するシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法であって、金型キャビティ内に配置した金属薄板(2)の周縁部に金属薄板の断面部(21)を介して樹脂流路(5)を形成するように金型キャビティを設け、形成するシリコーン樹脂層の片側からシリコーン樹脂を射出し、金属薄板の両面周縁部にシリコーン樹脂層を形成することを特徴とするシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法。



A-A

【特許請求の範囲】

【請求項1】 金属薄板の両面にシリコーン樹脂層を射出成形法により形成するシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法であって、金型キャビティ内に配置した金属薄板(2)の周縁部に金属薄板の断面部(21)を介して樹脂流路(5)を形成するように金型キャビティを設け、形成するシリコーン樹脂層の片側からシリコーン樹脂を射出し、金属薄板の両面周縁部にシリコーン樹脂層を形成することを特徴とするシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法。

【請求項2】 流動し易いシリコーン樹脂層側からシリコーン樹脂を射出することを特徴とする請求項1記載のシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法。

【請求項3】 形成するシリコーン樹脂層の厚みが0.05mm~1.0mmで硬度(JIS K 6301 スプリング式硬さ試験 A形)が40~70の範囲であることを特徴とする請求項1乃至2記載のシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法。

【請求項4】 燃料電池のセバレータに用いることを特徴とする請求項1乃至3記載のシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電気・電子部品等のクッション材、パッキン材、スペーサー、特に燃料電池のセバレータとして好適に使用でき、複雑な形状や、部品の小型化が可能なシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法であって、特に正確でかつ生産効率に優れたシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来からシリコーンゴムは、耐熱性や電気的絶縁性等の特性に優れていることから、上記クッション材やスペーサー等の各種用途に使用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記のシリコーンゴム単体からなり、比較的肉厚の薄い薄膜のものを電気・電子部品等にそのまま組み入れようすると、薄膜上にシワが生じたり、薄膜同志で密着し剥がしづらくなる等の作業性に問題があった。そこで、このような問題点を解消するためにシリコーンゴム単体と非伸縮性の金属薄板と複合一体化した積層体が知られている。

【0004】上記複合一体化の方法としては、通常、金属薄板の少なくとも片面にシリコーンゴムシートを載置し、加熱加圧する方法が行われているが、部分的に載置する場合、位置合せが困難であったり、さらには金属薄板の表面に凹凸があるものでは、均一に貼り合わせることが困難という問題があり、特に金属薄板の両面に設けることが困難であった。そこで、金属薄板に貫通孔を設け、シリコーン樹脂層を射出成形法により形成する金属複合体の製造方法が提案されている(特願平9-349

875号)が、この方法では貫通孔の位置等によって、金属薄板の端部に樹脂のはみ出し部分(バリ)が発生し易いという問題があった。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、上述の問題点を解消できるシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法を見出したものであり、その要旨とするところは、金属薄板の両面にシリコーン樹脂層を射出成形法により形成するシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法であって、金型キャビティ内に配置した金属薄板2の周縁部に金属薄板の断面部21を介して樹脂流路5を形成するように金型キャビティを設け、形成するシリコーン樹脂層の片側からシリコーン樹脂を射出し、金属薄板の両面周縁部にシリコーン樹脂層を形成することを特徴とするシリコーン樹脂-金属複合体の製造方法にある。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳しく説明する。本発明に使用される金属薄板としては、鋼板、ステンレス鋼板、メッキ処理鋼板、アルミニウム板、銅板、チタン板等が好適であるが、これらには、限定されない。金属薄板の厚みは0.1~2.0mmの範囲のものが好適であり、表面に凹凸を有するものも使用できる。この凹凸は用途等によりその形状は異なるが、3次元的な構造であって、用途が燃料電池、特に固体高分子型燃料電池のセバレータでは、燃料ガスの流路用溝等が相当する。

【0007】なお、金属薄板のシリコーン樹脂層と接する面には、密着性の点から各種プライマー層を設けることが好ましい。このプライマー層はスプレー法やティッピング法等の通常の方法により被覆すればよい。プライマー層の厚みは0.01μm~5.0μmの範囲であることが好ましく、0.01μm未満では、塗布厚さの調整が困難で有り、5.0μmを越えるものでは、密着性の改良効果が少ない。

【0008】上記金属薄板の少なくとも片面には、シリコーン樹脂層を形成するが、使用するシリコーン樹脂は液状のシリコーン樹脂であって、通常の付加型液状シリコーン樹脂で二液タイプのものが使用でき、粘度が10³~10⁴ポイズ(25°C)の樹脂が好適に使用できる。粘度が10³ポイズ未満のものでは、柔らかすぎて取り扱いにくく、10⁴ポイズを越えるものでは、射出成形時の流动性に劣り易い傾向にある。また、必要に応じて微粉末シリカ、ケイソウ土、高熱伝導性無機フライ等の充填剤を添加してもよい。

【0009】本発明ではシリコーン樹脂層を射出成形法により形成することに特徴があり、射出成形法としては金属薄板を金型内に保持して樹脂を射出する、いわゆるインサート成形法によればよく、金型温度として130~180°Cの範囲、射出圧として150~1000Kgf/cm²の範囲で気泡やバリ等が発生しない条件を適宜決めて成形すればよい。

【0010】本発明の製造方法では上記金属薄板2の周縁部に金属薄板の断面部21を介して樹脂流路5を形成するように金型キャビティを設けることが重要であり、形成するシリコーン樹脂層の片側からシリコーン樹脂を射出し、樹脂流路5を通じて金型キャビティ内に樹脂を充填する。本発明の方法ではバリ等を発生させることなく両面同時にシリコーン樹脂層を形成できることから効率的な生産が可能となる。樹脂流路5の厚みは0.3mm～0.5mm程度の範囲とすればよく、ゲートの位置等で適宜決めることができる。また、シリコーン樹脂を流动し易いシリコーン樹脂層側から射出する方法が充填効率の点から好ましい。

【0011】射出成形後のシリコーン樹脂層の厚みは0.05mm～1.0mmの範囲とすることが好ましく、0.05mm未満では、正確な射出成形がしづらく、また弾力効果が出にくく、パッキン材としての利用性に劣り、1.0mmを超えるものでは燃料電池、特に固体高分子型燃料電池のセバレータ用としての用途では小型化しづらく、またコスト高になり易い。

【0012】さらに、射出成形後のシリコーン樹脂層の硬度を40～70、好ましくは50～60の範囲とすることが好ましい。硬度の測定方法はJIS K 6301スプリング式硬さ試験 A形に準拠して行なう。この硬度が40未満では柔らかすぎて取り扱いにくく、70を超えると硬くなりすぎて弾力性に欠ける傾向にある。

【0013】本発明の製造方法により得られる複合体は電気・電子部品等のクッション材、パッキン材、スペーサー、Oリング等に使用できるが、特に燃料電池（固体高分子型燃料電池）のセバレータの用途に好適に使用できる。このようなセバレータはより小型化が要求され、また多数のセバレータを重ね合わせて使用することから精度が優れ、生産性のよいセバレータが要求されており、射出成形によりシリコーン樹脂層を形成する本発明の複合体はこのような要求を満足することが容易である。

【0014】

【実施例】以下、実施例について説明するが、本発明はこれに限定されるものではない。

（実施例）射出成形法により形成してなるシリコーン樹脂一金属複合体製の燃料電池セバレータについて図1乃至3に基づいて説明する。図2は本発明の方法で得られた燃料電池セバレータ用金属複合体の片側（表面）の平面概略図、図3は図2の反対側（裏面）の平面概略図である。

【0015】図1は図2の金属複合体のA-Aにおける断面概略図であって射出成形機金型1内に保持した状態を示す断面概略図であり、金属薄板2の端部は金型の固定側型板11と可動側型板12の合わせ面に載置し保持

されている。

【0016】本発明の方法では金属薄板2の周縁部に金属薄板の断面部21を介して樹脂流路5を形成する必要があり、樹脂流路5を設ける位置は適宜きめることができると樹脂の流动が良好となり好ましい。また、形成するシリコーン樹脂層の片側からシリコーン樹脂を射出するが、図1に示すように、金型の固定側型板11のゲート4から液状シリコーン樹脂6が射出される。

【0017】液状シリコーン樹脂6は表面のシリコーン樹脂層51から金属薄板の断面部21の樹脂流路5を通じて裏面のシリコーン樹脂層52へキャビティ内に充填されることにより形成される。

【0018】液状シリコーン樹脂としては信越化学（株）製 KE-1950-60を使用し、金型温度160°C、射出圧500Kgf/cm²の条件で、ステンレス鋼板（表面プライマー処理 東芝シリコーン（株）製ME-21）の片面に射出成形した。

【0019】脱型した後、図2、3に示した平面概略図の燃料電池セバレータを得た。図2、3では中央部分は省略しシリコーン樹脂層のパッキン部、リブ部を斜線で示している。得られた燃料電池セバレータではステンレス鋼板とシリコーン樹脂層との間の接着性が良好で剥離等がなく、またバリや気泡等の発生が見られず燃料電池セバレータとしての性能上問題なかった。シリコーン樹脂層の硬度は60であった。

【0020】

【発明の効果】上述したように、本発明の製造方法は両面にシリコーン樹脂層を設けた金属複合体を正確にかつ効率的に製造できるという利点を有しており、各種電気・電子部品等のクッション材、パッキン材、スペーサー、特に燃料電池（固体高分子型燃料電池）のセバレータの製造方法としての利用性が大きい。

【図面の簡単な説明】

【図1】図2に示した金属複合体のA-Aにおける断面概略図である。

【図2】本発明の方法で得られた燃料電池セバレータ用金属複合体の片側（表面）の平面概略図である。

【図3】図2の反対側（裏面）の平面概略図である。

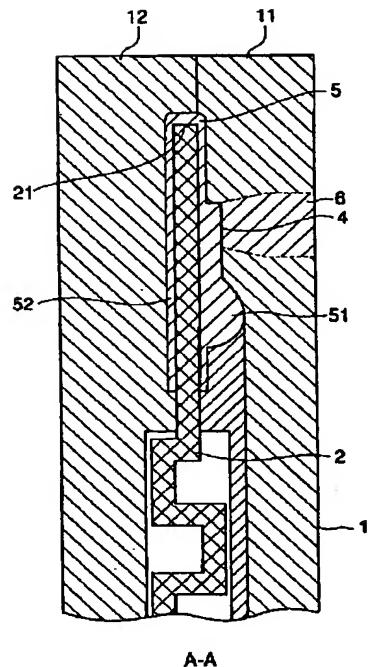
【符号の説明】

- 2 … 金属薄板
- 21 … 金属薄板の断面部
- 4 … ゲート
- 5 … 樹脂流路
- 51 … 表面のシリコーン樹脂層
- 52 … 裏面のシリコーン樹脂層
- 6 … シリコーン樹脂

(4)

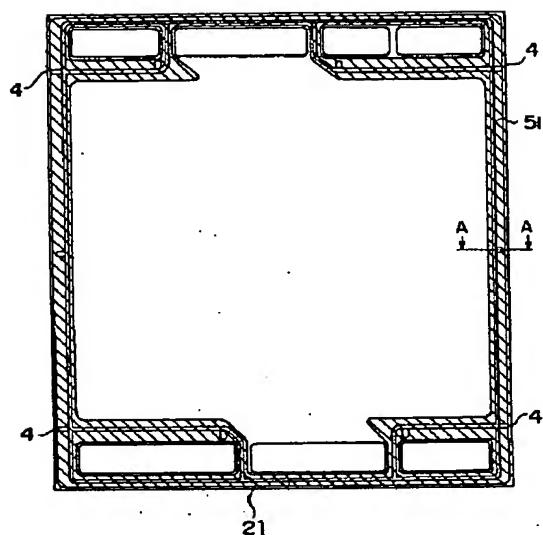
特開平11-309746

【図1】

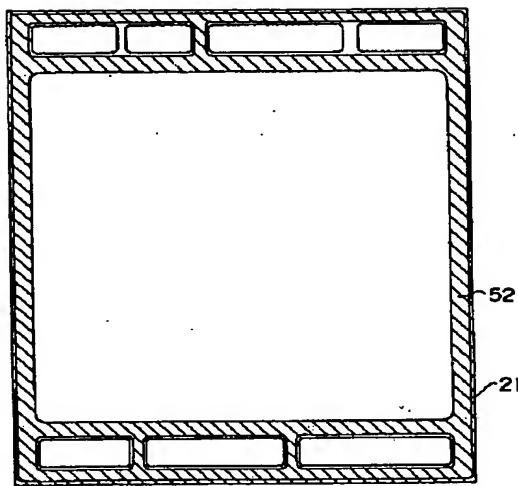


A-A

【図2】



【図3】



フロントページの続き

(51)Int.C1.⁶
H 0 1 M 8/02
// B 2 9 K 83:00
105:22

識別記号

F I
H 0 1 M 8/02

B